

ふるさと御所歴史探訪

環濠と背割下水

『鴨都波 11次発掘調査報告』
(1992) 18ページをご参考

照ください。

西御所は環濠集落で、16世紀の中頃には存在が確認できますが、いつできたのかは、わかりません。東御所は環濠のある寺内町であり、天文年中(1532~1555)に

できることを説明しました。
写真1は、西御所の東側の環濠です。この石積みは、「野面積み」と言われるもので、自然石を加工せずに大小を組み合わせて積んだものであります。後述の背割下水も含め、御所まちには、野面積みが残っている所が多いのです。

奈良県内には、中世の環濠が残っています。西御所へは、大正中学校付近で柳田川から取水し、鴨都波神社の境内から柳田川の下を通って供給されています。西御所

は豊年橋近くの涌水から供給されていましたが、現在は蛇穴の涌水から供給されています。環濠には、外部から水が供給されています。西御所へは、大正中学校付近で柳田川から取水し、鴨都波神社の境内から柳田川の下を通って供給されています。この流れは、「御手洗川」とか「鴨下り神水」とか「鴨下り神水」と言われています。柳田川の下を通り、大阪では「太閤下水」

と/or、大阪では「太閤下水」ととも言われます。天正11年(1583)から始まつた大坂城築造にともなって、町づくりが行われ、その時に背割下水が設置されたということです。しかし、現在は、無くなったり、暗渠になつたりしています。背割下水が残つてゐる所として、近江八幡市、橿原市今井町などがありますが、ほとんどがコンクリートで改修されているようです。

NPO「御所まちネット」

先月号では、「御所まち」は約400年前に計画的に造られた町であること、寛保2年(1742)の「検地絵図」に基づいて述べました。その時、「環濠」と「背割下水」について触れましたが、今回は、これらについて説明したいと思います。



写真1

環濠集落は、全体を濠または堀で囲まれた集落です。弥生時代にみられ、いつたんはなくなり、また、中世に現れたということです。目的については、防御のため、水利のため、洪水防止のため等、いろいろな説があります。詳しくは、市立図書館にある

東御所へは、以前

の一部として、三室にある旧市民会館の駐車場の東側で検出されています。詳しくは、市立図書館にある

西御所は環濠集落で、16世紀の中頃には存在が確認できますが、いつできたのかは、わかりません。東御所は環濠のある寺内町であり、天文年中(1532~1555)に

できることを説明しました。
写真1は、西御所の東側の環濠です。この石積みは、「野面積み」と言われるもので、自然石を加工せずに大小を組み合わせて積んだものであります。後述の背割下水も含め、御所まちには、野面積みが残っている所が多いのです。

奈良県内には、中世の環濠が残っています。西御所へは、大正中学校付近で柳田川から取水し、鴨都波神社の境内から柳田川の下を通って供給されています。この流れは、「御手洗川」とか「鴨下り神水」とか「鴨下り神水」と言われています。柳田川の下を通り、大阪では「太閤下水」ととも言われます。天正11年(1583)から始まつた大坂城築造にともなって、町づくりが行われ、その時に背割下水が設置されたということです。しかし、現在は、無くなったり、暗渠になつたりしています。背割下水が残つてゐる所として、近江八幡市、橿原市今井町などがありますが、ほとんどがコンクリートで改修されているようです。

NPO「御所まちネット」

環濠

写真2

背割下水

写真3

写真4

